



[特別講義]

センター試験「解き方」の心構え

<最新版>

松江北高英語科
平成26年9月

試験時間：80分

重要

- ①頻出知識の充実→ひたすら演習→定着あるのみ
- ②効率良い解法→対策本で「やり方」の学習
- ③時間配分の練習→ストップウォッチを使いスピード練習

● 筆記 (200点)

- 《注意》①制限時間内でのスピード (点の悪い人は最後までいかないノダ) →練習の時から定点観測を
②設問形式は変わっても問われる核心部分は同じ (形式が変化した設問は最初は《易》傾向となることも知っておこう)

スタートは

<問題を解く順序の大原則>

知識系**読解系**

<サクサクと>
【アタマの緊張をほぐす】
※第1問&第2問の知識問題からスタート

<ジックリと>
【第3・4・5・6問は得意な順で】

第1問

👉 **知識量に依存！狙われるものは決まっている！3分で**
～意味・綴りだけでなく、「音」を意識した学習を！

センター試験の【第1問】は「発音・アクセント問題」です。ここは絶対に満点の狙える箇所です。なぜなら「出る単語は決まっている！」からです。対策をきちんとやれば、必ず満点が取れるはず。日頃の模試やセンター試験本番で検証済みです。迷わずにスピーディに解きましょう。

【発音問題】 頻出の綴りが存在します。母音と子音が半々ずつ出題されます。私の「2015年度センター試験対策本～勉強の仕方」(自費出版)の「頻出発音」をご覧ください。一言でいうと、「変な発音をする変なヤツ」が狙われるということですね。その主なものを押さえたうえで、ジェーン先生のCDについて「発音頻出語リスト2015」を繰り返し徹底的に音読してください。それをやったうえで、山下りょうとく先生(河合塾)のホームページ(<http://ryoutoku.jimdo.com/>)にある「発音・アクセント問題演習」という練習問題をやるといいでしょう。黙字も頻出ですから注意しましょうね。綴り **ea, o, oa, oo, ou, ough, ow, gh** の発音には注意です。

【アクセント問題】 アクセントの位置は語末から決まっていきます。代表的なアクセントルール「双子の法則」「三味線語ルール」「イクイクルール」「ヤンヤンヤサヤントヤリテエの法則」「渋いから痛えの法則」「愛の法則」「子チビ母チビの法則」「グラフとグラムあぶる朝へと合図」程度は知っておいて損はありません。後は「発音問題」の時と同じで、「アクセント頻出語リスト2015」を繰り返し音読してください。品詞によってアクセントの位置が移動する語は要注意ですよ。八幡『発音・アクセント問題の攻略法』(自費出版)が参考になります。

ここで一つ注意を喚起しておきます。発音・アクセント問題では、日本語化した「カタカナ語」が非常によく狙われます。つい日本語式で読んでしまうと間違えるからです。今までも大量に出題されています。「カタカナ語頻出語リスト2015」を何度もジェーン先生のCDについて音読しておきましょう。センターの過去問(本試・追試)をやってみるのもいいでしょう。『重要問題演習(筆記)』の音声ダウンロードサービスも利用しましょう。

これだけの努力で満点をゲットできるのですが、残念ながらここまでできている生徒は全国でも少ないんです(成績上位の生徒も結構取りこぼしている)。手を抜いて軽視している受験生が多いようです。やるか、やらないか、それだけのことです。『積小為大』の精神ですよ。4つの選択肢のうち3つが分かれば正解が出る(消去法)のですから、知らない単語が出てきても焦らないことが大切です。

★第1問の迫り方★ ジェーン先生のCDについて「頻出語リスト」を徹底音読練習せよ！

第2問

👉 **ここも知識量に依存！スピーディーに！10分で**
～知っているか知らぬか？ただそれだけ 自分の不足知識を補いながら着実に穴を埋めていく

センター試験の【第2問】は、(A)文法・語法・語彙問題、(B)会話文補充問題、(C)語句整序問題の三つに分かれます。どれも本質的には「単語・熟語・文法」の知識を試す出題です。

【文法・語法・語彙問題】 1問30秒で 文の構成ルール(=文法)と語句の意味(=語彙)・用法(=語法)についての知識を問います。とにかく演習あるのみ！最近では文法問題より語彙問題が増加しているので、解いた量がモノを言います。「質」より「量」を、というのが最近のセンターの傾向です。過去問や問題集を使ってできるだけたくさん問題にあたっておきましょう。知っていれば秒殺の問題だからです。「単語・熟語・文法」のどの知識を問う問題なのかを確認しながら、毎日数を決めて問題を解くと効果的です。ここはとにかくスピーディーに。ただ、よく狙われるという分野(動詞・形容詞・代名詞・副詞・前置詞)があるようで、私たちの『センター試験 英語 過去問題集 TREND17 文法・語法頻出17項目の演習』(ピアソン桐原)の「別冊」に頻出事項が整理されていますから参考にしてください。八幡(編)「2015年度英語センター試験対策本～勉強の仕方」(自費出版)に解説された文法事項はきちんと復習しておきましょうね。さらに、山下りょうとく先生のホームページにある「センター文法・語法スーパーチェック」「動詞の語法問題演習」「英文法・語法問題演習」「類義語・語義説明問題演習」「英熟語のまとめと問題演習」というファイルをダウンロード、プリントアウトしてどんどんやってみると力がつきます。解答・解説も詳しく丁寧です。なぜそれが正解となるのか、自分で自分に声を出して解説しながら解くとうんと力がつきますよ。ここは語彙・熟語力をひたすら磨くことに努めてください。ノートに書いていてねいに覚えるよりも、何度も繰り返して頭にたたき込む方が効果的です。

★第2問Aの迫り方★ ひたすら量をこなして知識の充実に努めよ！頻出分野をしっかり押さえる

【会話文完成問題】 1問1分で 「(場面の設定) ➡ ➡ (応答)」が基本パターンです。前で「場面設定」、後ろが「ヒント」となっています。①最初のセリフで場面設定を頭に入れる、②空所の後のセリフを言わせるような発言を選択肢より選ぶ、③入れたものが最後の応答にスムーズにつながっていくかどうかを検算する、この3ステップで解くといいと思います。「2015年度センター試験対策本～勉強の仕方」に出ている会話頻出表現はちゃんと覚えておくことは言うまでもありません。さらには山下りょうとく先生のHPにある「会話文問題演習」「頻出会話表現のまとめ」をやってみましょう。前後の「代名詞」や「Yes/Noの返答」やプラス・マイナスの内容がヒントになることが多く見られます。会話によく出てくる「相づち表現」も知っておきましょう。

★第2問Bの迫り方★ 空所後ろ(or前)に注目する 流れのスムーズなものを選ぶ!

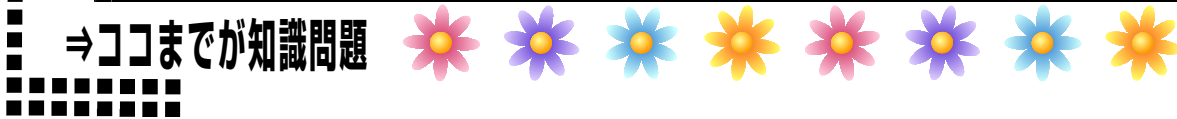
A : _____

B : 最後の応答を生むような発話を選ぶ

A : _____

【語句整序問題】 1問1分で 選択肢は6つ(組み合わせは120通り)。まぐれで合うことは絶対にありません。1問1分で、まずは空所の前後と選択肢からどんな意味になるのか?を頭に入れてから、私の「2015年度英語センター試験対策本～勉強の仕方」に挙げられた「8つの目の付け所」と「熟語の知識」を活用して、一組でも二組でもつないでしまいます(選択肢減らしの術)。そうすれば正解に一段と近づくことができます。空所の後にヒントが落ちていることが多いようです。動詞に注目することで、「小さくつないで大きくまとめる」が大原則です。語彙力、熟語・構文力、文法力を強化することです。本番では、一問は難しいのが入れていることも知っておきましょうね。私の「ダウンロードサイト」には「語句整序演習問題(5択)」&「その解答」という100問が登録されていますのでご利用ください。また、山下りょうとく先生のHP「整序作文問題演習」をやってみるとよいでしょう。その際に、問われている複数のポイントを見抜き、意識して練習することです。数をこなすことでコツがつかめてきますよ。三浦淳一『センター試験英語語句整序を10時間で攻略する本』(中経出版)も参考になります。高校生は「S+V+O+C」と「後置修飾」が特に苦手なようです。「北高暗唱例文」は完璧に覚えましょう。貯金が必要なんです。動詞の語法、準動詞の用法、接続詞と関係詞、比較の重要構文などがよく問われます。

★第2問Cの迫り方★ 8つのセットと熟語・構文に注目し、「小さくつないで大きくまとめる」



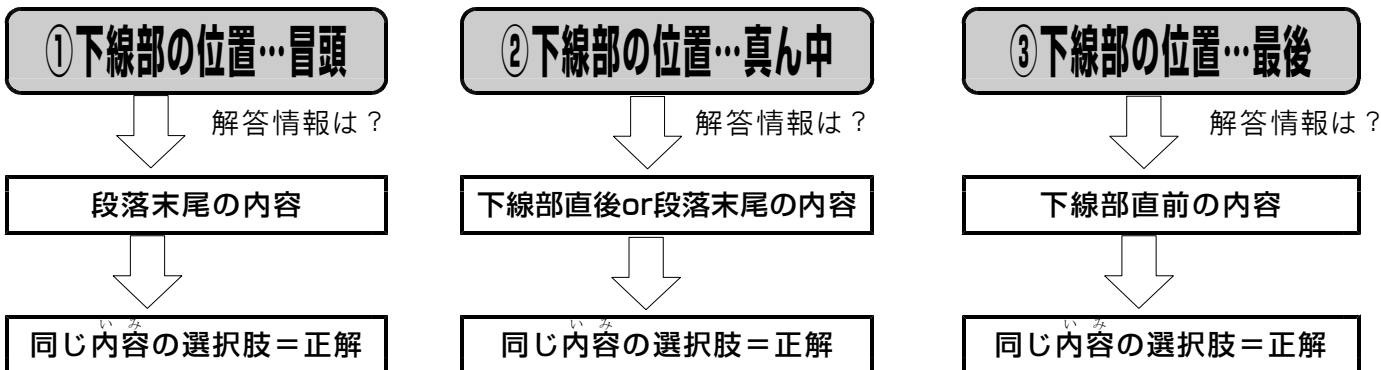
大切なことは、ここまで時間をかけずにスピーディーにサクサクと進めるということです。ここで足踏みしてしまうと、後半の「読解問題」にしわ寄せがきて、時間切れで最後までいかないことになります。読解系の問題は、本文中に解答の根拠を探し、選択肢と照らし合わせる(=言い換え)作業がすべてです。

第3問 ここから読解問題だ! 問題文を二度読みしないよう効率的に解く!

センター試験の【第3問】は、(A)語句類推、(B)不要文削除、(C)発言要約、の三つで試されますが、これらはいずれも段落内の「英文の展開」を形を変えて聞いているだけです。基本展開の型は「**主題文** ➡ **支持文** ➡ **結論**」です。これをきちんと理解しておけば、それぞれの問題の解き方の方針が決まります。文章の主題を客観的に捉える練習を積みましょう。

【語句類推】 上の基本展開が分かれば、下線が引かれる部分と、ヒントのある箇所に強い「位置関係」があるということも理解できますね。①下線が最初の場合➡最後を見る、②下線が真ん中の場合➡直後を見るか、最後を見る、③下線が最後の場合➡直前を見る、これを頭に入れて最初から最後まで普通に英文を読んでいけばいいのです。「こちら辺にヒントがありそうだな」とあたりをつけながら読むのです。『センター試験直前演習2015』(ランズ)の付録に付いている小冊子が「未知語の推測」のツボをコンパクトに扱っており、参考になりますよ。この種の問題は明治大・青山学院大・中央大・法政大・学習院大で毎年出題されていますから、過去問を利用するとよいでしょう。センター試験の本試・追試の過去問も勉強になります。これは語彙問題ではなく、あくまでも読解問題であることをお忘れなく。ここは満点を狙います。

★第3問Aの迫り方★ 下線部と解答情報(ヒント)の「位置関係」に注意!

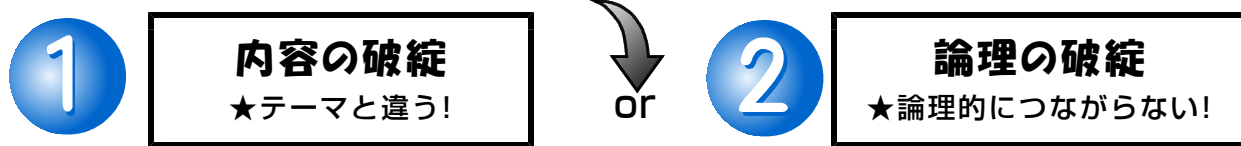


【不要文削除】 《新傾向》 取り除いた方がよい「仲間はずれ」の文を探す問題です。(ア)本文の最初に示される取り上げる話題(テーマ)とは違うものを見つけるか、(イ)共通するもの三つを見つけて残りの一つを「消去法」で発見するか、どちらかです。一つの段落には一つの主張しか入れられないのですから、内容には一貫性がないといけません。直前直後の文とのつながりが不自然なところを発見したり、パラグラフのテーマとのつながりを意識して読んでください。注目すべき

は、①論理、②形、③指示語、④副詞、です。怪しい文を発見したら、その文を取り除いたらうまくつながるかどうかがチェックします。

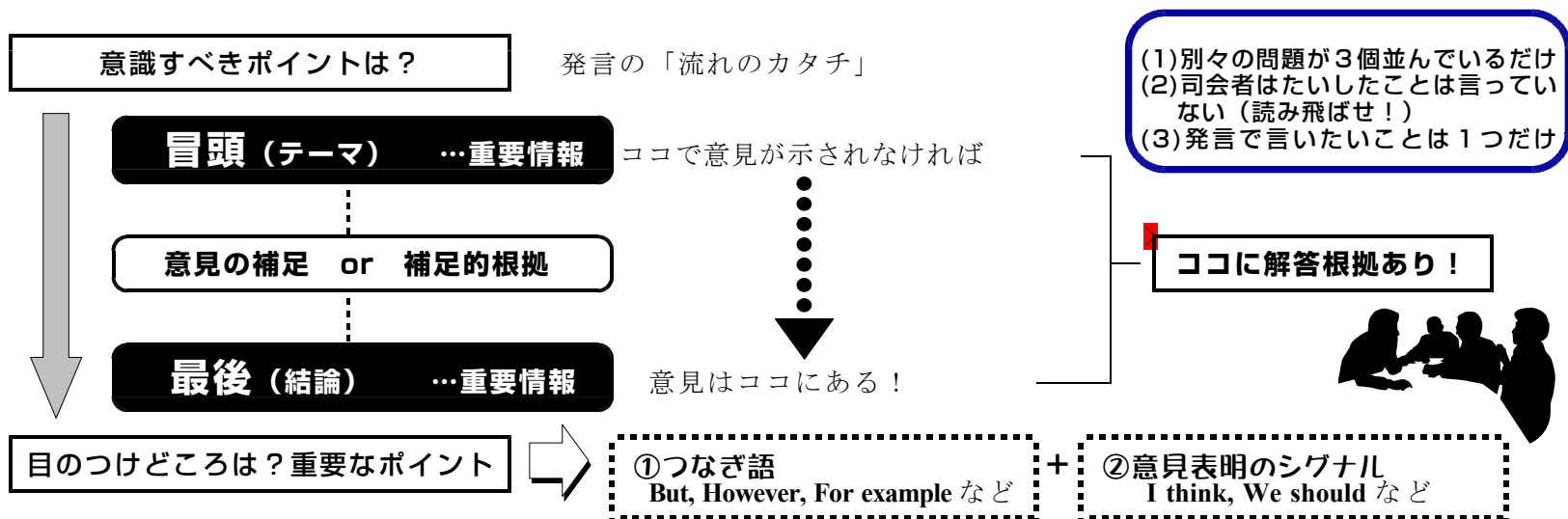
★第3問Bの迫り方★ **仲間はずれの発見！「テーマ」とはずれたものが正解！**
1つの段落には1つの主張しか入れてはならない！＝一貫性

●次の2つのどちらかになる！本文「テーマ」は最初に提示される。



【発言要約】 上の基本展開より、最初と最後に「重要な主張」が述べられることが分かりますね。言葉は違えど、言っていることは同じことです（言いたいことは一つ）。ここを見落とさずに読むことが重要です。時に真ん中の方に主張が来る場合もありますが、《重要》①最初と最後、②But（逆接）の後、③疑問文、④つなぎ語に注目すれば、すんなりと筆者の主張が読み取れますよ。今までにやった模試の問題で確認してみてください。それからもう一つ、問題の日本語の指示文に扱う議論のテーマがちゃんと書いてあるんです。ここをしっかりと押さえてから英文を読むようにしましょうね。これは大きなヒントですよ。また、「つなぎ語」(But, However, Moreover など)や、主張・意見を導く特定の語 (I think, We should など)にも注目しましょう（「2015年度センター試験対策本」にまとめあり）。ココも満点を狙います。

★第3問Cの迫り方★ 「この文章は何を言いたいのか？」＝テーマ
「冒頭」と「最後」に注目せよ！＝重要度の高い情報[主張] **真ん中はサラッと流すには要注意！**
 (1)「つなぎ語」にも要注意！ (2)主張・意見を導く語



第4問 図表・グラフに惑わされない！ただの読解問題だ！

センター試験の【第4問】は図表・グラフ・広告問題です。スピーディーで正確な情報処理能力が試されます。数値が出てきた場合は計算と心得ましょう。いずれの問題も、設問文を先読みして何が問われているのかを把握します。

【図表・グラフ問題】 (間接資料問題) 英文の展開は **現状認識・問題提起** ➡ **実験・調査結果の提示・分析** ➡ **解決策・新たな問題提起** 図やグラフに惑わされてはいけません。主役はあくまでも本文で、ただの読解問題です。設問を先に読んで「探し物」を頭に入れてから本文を集中してしっかりと正確に読んでいきます。設問のキーワード(名詞・動詞)を頼りに本文を読んでいくのです。ただ、語彙にチョット特徴があるので(この英文が読みづらいという人の多くがこの問題特有の語彙でつまづいています)、特有の必須語彙はきちんと覚えるようにしましょう。私の「2015年度センター試験対策本」にまとめてあります。あるいは山下りょうとく先生のHP上にある「ビジュアル問題頻出表現のまとめ」がよいでしょう。この部分は最近、やや《難化傾向》です。「この後にどんな内容の英文が続くか？」という新傾向問題《やや難》にも注意しましょう。これは、最終段落の「**A** and **B**」(必ず書いてある)に注目して、どちらが書いてないか(ほとんどB)をチェック(通例**B**)すればいいのです。必要な情報を探しやすいように作業を整理整頓！

【広告問題】 (直接資料問題) **探し物を頭に入れてそれだけを素早く探せ！設問を先読みして情報の位置を把握**

センター試験の【第4問B】は「広告」を使った問題です。この問題だけがセンター試験の中で、設問が先に来て、本文が後に、という構成になっていますね。つまり問題を先に読んで、「探し物」(何が問われているか?)を明らかにしてから、本文のありそうな部分だけ「資料検索」(答えを出すのに必要な情報は何か?)に入ってね、「つまみ食い」してね、というメッセージなんです。さらに、内容一致問題の設問中に必ず「キーワード」(名詞・動詞)があるので、それを基にして広告の該当箇所を「つまみ食い」にいきます。ヒントになるのは広告の見出しの太字部分、また広告のタイトルや項目部分です。内容真偽問題の場合には、それぞれの選択肢に含まれるキーワードを手がかりに、資料内の該当箇所と正誤判定を一つ一つしていくのです。時間がかかり面倒ですから、この種の問題は難度が上がります。このような解法の基本を知らずに漫然と解いている生徒が結構いるんです。ここは満点を狙います。センター試験・模試の過去問を利用して演習するのが一番の対策でしょう。必ずしも、問1から順に解いていく必要はありません。対応箇所が分かった設問から答えていきましょう。

★図表・グラフ・広告問題の解き方★ **情報検索能力**を問う **キーワード**を手がかりに
設問文から「探し物」の確認(キーワード) ⇒ **資料内情報検索(本文)** ⇒ **解答(言い換え)**

第5問 **キーワードを頼りに本文を当たれ!** これも読解問題だ! 満点を狙う

センター試験の【第5問】は**内容一致問題**と**ビジュアル問題**です。2つの文章は、1つの出来事に関する<証言1>、<証言2>の関係になっており、双方の文章から必要な情報を拾います。設問を先読みして、設問に含まれる**キーワード(名詞・動詞)**を頼りに本文の該当箇所を探ります。本文中に必ず**キーワード**か、その「**言い換え**」が出てきます。その近辺がヒントです。それと同じ内容を述べた選択肢が正解となります。その設問がA、Bどちらのセリフに対応箇所がありそうかを振り分けましょう。ただしAに対する設問でありながら、実はBにも**対応箇所**があったりすることがあるので注意が必要です。**内容一致問題**の場合は、選択肢の一つ一つに存在する**キーワード**を手がかりに正誤判定をしていきます。これは時間がかかり難しくなります。ビジュアル問題の方は本文を読む前に、何を読み取ればよいのかをイラストを見て仕込んでおきます。そして本文を読む際に、その手がかりになりそうな箇所には下線を引きながら読むとよいでしょう。その手がかりを基に、正しいものを探すよりも、条件に合わないものから消していく(**消去法**)のが有効です。1カ所でも矛盾点の見つかったイラストを消去していけば自然に正解に行き着きますよ。ここは新傾向問題で、過去問が少ないので、模試や問題集を利用するとよいでしょう。2人の話の「**類似点**」と「**相違点**」を整理しながら英文を読むといいでしょう。形・大きさ・模様・位置・数などの表現を押さえよ。

★第5問の迫り方★ イラストがなければただの長文問題(イラスト設問以外は普通の内容一致・真偽問題)
※出題傾向の変更が多い大問
設問(イラスト)の先読み ⇒ **キーワードのキャッチ** ⇒ **本文を読みながら該当箇所に下線を引く**
⇒ **言い換えとなる正解選択肢** ★イラストの問題は「**消去法**」で

第6問 **1つの段落を読み終えるたびに設問を解く!** 《易化傾向》 ～「和訳力」と「対照力」大原則は読みながら、解きながら! 二度読みするな!～

センター試験の【第6問】は現在は**評論文**になっています。以前は物語文でした。設問もバリバリの**内容一致問題**で落とし穴もあって、結構難しかったものです。現在は**各段落の内容**をまとめる問題となり、段落番号の指示通り**該当箇所がすぐ特定**できるので、ずいぶん易しくなりました。そして最後は、各段落に**タイトル**をつける問題です。問われるのは**語彙力**と**速読力**です。ここは**設問の順序とストーリー展開**が一致しているのが最大の特徴です。

まず本文を読む前に、この表の埋められた**タイトル部分**に目を通しておくとよいでしょう。おおざっぱに何が書いてあるかが分かります。このように予備知識を持って読むのと、白紙状態で読むのとでは、ずいぶん読みのスピードも正確さも違ってきます。さていよいよ本文を読むわけですが、この問題の大原則は、一つの段落を読み終えたら該当する設問を解答するという「**読みながら、解きながら**」です。もちろんどんなやり方でもいいのですが、センター試験は時間の制約がありますから、できるだけ効率よく解きたいものです(二度読みを防止し、約20分で解きたいところ)。第一段落は文書全体のテーマが示されます。一つの段落を読み終わるごとに、その読み終えた段落に関する設問に答えます。また次の段落を読んで、その設問に答えていきます。こうやって「**読みながら、解きながら**」一問ずつ進めていくのです。本文を全て読んでから設問を解くのではなく、一段落読み終わる毎に、その読み終えた段落に関する設問を解くのがコツです。設問中の**キーワード**を頼りに「**原文典拠の法則**」に従って、根拠とした部分に下線を引き「**思考の痕跡**」を残しましょう。**正解は本文とは違う表現で言い換えています(同一内容異表現の法則)**。ただここで一つ、大切なことを言います。各段落を読んだら、その要点を簡潔に余白に**一言メモ(=一言要約)**しておくといよいでしょう。これが後でタイトルつけの問題をやるとき、大きなヒントになります。もちろん、各段落に関する設問の**正解選択肢の内容**も大きなヒントです。設問中の一問は**全体要旨**に関わるものです。最終段落がこれにあたります。各段落の要点をキャッチする秘訣は、英語の論の展開を考えるとすぐわかりますね。英語は「**主題文** ➡ **支持文** ➡ **結論**」のように展開していきますから、段落の「**最初**」と「**最後**」を見ると、大ざっぱな筆者の主張(=重要な情報)がわかるはずですよ。さらには、「①Butの後(逆接の後には重要!)、②疑問文(問題提起)、③最初と最後(主題文)」に重要な主張が来ることも覚えておきましょう。先ほどの余白の**一言メモ**と問1～問5の正答の両者をヒントにすれば、最後のタイトルつけの問題は楽勝でしょう。メモの内容に合うタイトルを選ぶだけです。

この第6問をクリアするのに必要なのは**語彙力**と**速読力**です。過去問(本試・追試)や模試の問題で練習して下さい。

★第6問の迫り方★ **大原則** 「**読みながら、解きながら**」 <テーマ>→<具体化>の論理展開
1つの段落を読み終わるたびに設問を解く!
表の埋まっている**タイトルを確認** ⇒ **問1設問文をチェック** ⇒ **該当段落を読む**
⇒ **要点をメモ** ⇒ **その段落に関する設問を解く**
⇒ **問2設問文をチェック** ⇒ **該当段落を読む** ⇒ **要旨を一言メモ**
⇒ **その段落に関する設問を解く…(繰り返す)…**
⇒ **一言メモ・各設問の正解選択肢をヒントに段落のタイトルつけ**

④程度のあまりにも甚だしい語「全て」「必ず」「絶対」「唯一」…を含む選択肢は不正解の可能性が高い(極端の法則)《裏技》

【お薦め参考書】 次のものは八幡お薦めの参考書です。

- ◆ 山下良徳『センター英語9割GETの攻略法』(語学春秋社)
- ◆ 水野 卓「センター試験傾向と対策ナビ」『蛍雪時代』(旺文社)連載
- ◆ 福崎悟郎『きめる!センター英語』(学研)
- ◆ 八幡成人『2015年度センター対策本～勉強の仕方』(自費出版)



●リスニング (50点) のポイント



★設問、選択肢の先読みは全ての問題に共通 (待ち受け&仕込み) → **1. 設問で進める**
 聴き取るべき内容を明確化 → **2. メモを取りながら**

第1問 短い会話を聞き取る問題 《基本》

6問 配点12点

151wpm

キーワードは3種類！設問ごとにあらかじめ把握を ★基本問題！まずここで満点を取れるように

1 **数字** → 数値・計算を問う
2 **場所・位置関係** → 位置・経路を問う
3 **話題の中心語句** (イラストあり・なし) → 情報・内容を問う

設問の先読みは常識
 ◆1回目 <キーワード>をキャッチ
 ◆2回目 <会話全体の流れ>を再確認
 ※キーワードの周辺情報をチェックして足し算

Ⓞ 選択肢が数字の時には計算を予想せよ！

基本はココ!

第2問 短い会話の流れを考える問題 《やや難》

7問 配点14点

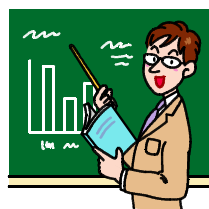
171wpm

キーワードよりも話の「流れ」をつかむのがポイント A-B-A
 = 《話者の意図》を推測

◆1回目 <細部の表現>と<対話全体の構造>&<最後のセリフ>をキャッチ
 ◆2回目 会話全体の構図&<1つ前の自分のセリフ>を正確にキャッチ
 自分が返事をするとしたら…?と考える

①Yes-No疑問文 ②Wh-疑問文 ③平叙文 — どれに続くか?をヒントに

●最も自然な流れになる選択肢を素直に選ぶ



●なぜ第2問が難しいのか?

- ①明確なキーワードがない
- ②最後+もう一つ前のセリフ、がカギ
- ③読み上げスピード最も速し!
- ④配点最も高い!(14点)

第3問A やや長めの会話を聞き取る問題

3問 配点6点

159wpm

すべては【第1問】+【第2問】の発展融合形 「5W1H」が基本!

場面状況 {
 ◆1回目 <キーワード+その周辺>と<最後のセリフ>をキャッチ
第1問 第2問
 ◆2回目 <全体の流れ>を再確認 → 類推力と予測力がカギ
 ●話し手の次の行動を予測
細部の確認 ⇒ 正解へ

Ⓞ 正解の選択肢は音声で読まれた語句・表現を使わずに、「言い換え」となっていることが多い。



第3問B 長い会話を聞き取る問題 《難》

3問 配点6点 148wpm

※設問の日本語の情報も見逃さない！ ④必ずしも解答の順序は会話の順とは限らないことに注意。

必要情報を複数箇所からピックアップする 語数第3問Aの2倍！

- ◆1回目 <キーワード>をキャッチ
- ◆2回目 <キーワード同士の関係>をキャッチ (時間関係・位置関係)

会話の展開によって図表を読み取る

⇒ 情報整理能力

《話題》 = **タイムテーブル** (あとさき) **空間把握** (位置関係) **データ比較** (差)

●「数値」や「比較表現」に注意！ 長いのでリスニングスタミナを要求する ヒントも前後に分散

ここまで会話形式



《難しい理由》 ①3問同時進行 ②1文=解答 とはならない

ここから文章形式

第4問A 流れを考える問題

3問 配点6点 140wpm

1段落の文章を聞き取る問題 「5W1H」が基本！

- ◆1回目 文章の「最初」と「最後」を特に意識する
- ◆2回目 その「間」を意識する — 全体の流れと細部に注目

どっちだ？ {

- ①部分把握問題？ — **キーワード**に注目 長い文章に隠れた**細部** (※ココが分かれば解答可能)
- ②全体把握問題？ — 「**最初**」と「**最後**」からアプローチ (※文章全体の要約的要素を選ばせる)

※読解問題と表裏一体 = 「読めないものは聞こえない」《大原則》
→スクリプトの英文が直読直解できるか？

第4問B 長文を聞き取る問題 《最も難》

3問 配点6点 137wpm

※「内容語」を中心に聞き取れ！

見た目は「一皿料理」でも本当は「おせちのお重」 = 「団子三兄弟」だ！

※第4問Aの部分把握問題をタテに3つつなげただけ 語彙・表現のレベルは高い 「流れ」よりも「部分」

3つの設問をあらかじめ把握

- ◆1回目…部分聞き取り
- ◆2回目…聞き漏らしのチェック

問23から1問ずつ順番に

「何を聞けばいいのか？」を把握

- 冒頭部分から → 問23
- 真ん中部分から → 問24 順に
- 最終部分から → 問25

「流れ」よりも「部分」に集中

※解答情報は順に現れる ★耳で試される読解問題だ！ 耳の「体力」を！（リスニングスタミナ）

<筆記>同様正解は本文の巧みな「言い換え」 ●「言い換えられた表現」を見抜く！2度目の放送を活用
放送された英文が100%分からなくても、聞き取れ理解できた部分から不明の部分の内容を推測

◎リスニング勉強の基本方針

スクリプトを見ないで解く

→

スクリプトを見ながら解く

→

スクリプトを見ないで解く
(英語の音・リズムに慣れる)